

西伊豆健育会病院

3階病棟 ケアワーカー 船津八重

功 績 VREがアウトブレイクした中で、感染対策の周知徹底に取り組み、スクリーニング検査で保菌者がゼロとなった功績。

推 薦 者 磯谷里佐

推 薦 理 由 今回、VREがアウトブレイクした中で、感染対策について周知を徹底し、スクリーニング検査で保菌者がゼロとなったのは船津の功績であり、また技能実習生受け入れ当初から積極的に関り、技能実習生定着に寄与し、更にTQM活動でも、病棟の中心となって活動してくれている船津を理事長賞に推薦いたします。

内 容

当院ではCOVID-19のクラスター終息後に、VREがアウトブレイクしました。COVID-19の対応についてはマニュアルを作成し、感染対策は徹底できるようになっていましたが、VREとは感染経路が異なるため、新たな対策の立案が必要となりました。

しかし、どのように感染対策を実施したら良いのか院内では結論が出ず、外部に支援を依頼しました。2023年3月20日～23日の間、国立感染症研究所、保健所スタッフが当院を視察し、調査結果は全職員が参加した会で発表されました。現状で、汚染物の処理が一番の問題となり、マセレーターを導入していただきました。購入検討から導入までが短期間で、保健所の担当者が迅速な対応に非常に驚いていました。

国立感染症研究所からは、マセレーターの導入だけではなく、やはり現場のスタッフが中心となって、感染対策(手指消毒)を行う必要がある。とのアドバイスがありました。更に、情報がスタッフ全員に行き渡り、手技が標準化できることが最重要項目でした。

3階病棟 船津八重は、入職10年目のケアワーカーのリーダーです。今回、これまでケアワーカーミーティングで問題となっていた、『ケアワーカーまで情報が伝わらない。』という意見も踏まえて、VRE保菌者の病室の入り口に、感染症の表示をイラスト化し、患者さんに関わるスタッフ、ご家族や面会者も把握できるように見える化しました。また、感染対策に必須とされる手指消毒についても、病棟スタッフのアルコールジェル使用量を毎月グラフにして可視化し、スタッフの意識付けになっています。現在は、静岡県初のマセレーターが設置され、6月1日より使用開始となり、スクリーニング検査を実施しましたが保菌者はゼロでした。

船津は前年度TQM全国大会で優秀賞を受賞したことが自信に繋がり、今年度のTQM活動もリーダーシップを発揮し推進しています。今回はポータブルトイレ使用患者の把握や、マセレーターに使用するパルプの使用枚数のカウントを行い、コスト削減に向けた取り組みを行っています。また、技能実習生の受け入れ当初から、指導者として親身に関わり、技能実習生からは「日本のお姉さん」と言われ、信頼関係も築き上げてくれました。彼女達が楽しそうに仕事ができているのは船津のサポートの賜物でもあります。